

事業開始前の写真

※すべてCLC#1ニーベック集合村（コンポントム州コンポンスヴァイ郡）



地域学習センター（CLC）建設地前の村道の様子（2013年年5月撮影）。ニーベック集合村は、近年までクメールルージュの残党に占拠されていたため、同国農村部の中でもひとときわ開発が遅れ、貧困度が高い。電気、上下水道などのインフラは未整備。ヘルスセンターも存在せず、小中学校はあるが、高校以上はない。集合村行政は存在するが、役場（建物）もない。



CLC付近の住居の様子（2013年年5月撮影）。同村は、住居として最底辺のわらぶき家屋が目立つ。当会の成人を対象としたランダムサンプリング調査（2014年7月実施）によると、同村の貧困世帯率（同国の貧困線使用、1人あたりの収入が1日1.15ドル以下）は93%、小学校未修者率は79%、日常生活で読み書きができないことに不自由を感じている住民は85%にもものぼった。この他、多くの世帯が安全な飲み水へのアクセスに欠け、トイレも持っておらず、水・衛生面にも不安を抱えている。



村に自生している植物を利用して、ござを編む住民の様子（2013年年2月撮影）。同村のほとんどの住民は農家であるが、灌漑設備がないため稲作は雨季に1回しか行っていない。この年1回の稲作も、肥料や農薬の使用法などの基本的な知識を持っていないこともあり収穫が少なく、収入手段となっていない。乾季は雨季に増して生計を立てるのが難しいため、プノンペンやタイに出稼ぎに行くか、女性は写真のような内職を行っている。



CLC建設予定地の様子（2013年年5月撮影）。同村の中心部に位置し、住民にとってアクセスがよい場所を選定した。小中学校、寺院、交番など、村の公共施設に囲まれている。小中学生の日々の学習での利用に加え、多くの成人住民にとっても週一回は寺院に参拝に来るため、この際に立ち寄ることが可能である。



CLC建設予定地内で、住民のグループディスカッションを通して当会職員がニーズ等の聞き取りしている様子（2013年年2月撮影）。聞き取りにあたっては、それぞれの住民から忌憚のない意見をきけるようリラックスした雰囲気で行えるよう配慮した。



同上（2013年年2月撮影）。家庭の切り盛りをしている女性の意見は本事業成功の鍵となるが、男性社会である農村では、男性を前にして女性は意見がし辛い。そのため、住民のグループディスカッションには女性だけのグループも用意した（聞き取る当会職員も女性）。これにより、男性もしくは男女混合のグループからはあがってこない、女性の「本音」を引き出し、これを踏まえて本事業を形成した。